



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和5年 3月28日(火)～6月18日(日)

展示期間 A:3/28(火)～4/25(火) B:4/26(水)～5/23(火) C:5/24(水)～6/18(日)

凡例:○は重要美術品を示します。

## 【第1展示室】

## 武家のシンボル — 武具・刀剣 —

大名はいうまでもなく武士であり、その集団の長であったため、泰平の世の江戸時代にあっても常に軍備を怠ってはならなかった。大名家の武器武具は単なる戦闘実用品ではなく、同時に「武士の心根」を表すように美しく気品に満ちていることが必要だった。中でも刀剣は「武士の魂」といわれる通り、武士の精神の象徴として大切にされ、最も高い格式を持ち、公式の贈答品の筆頭ともされた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	黒塗白糸威具足	徳川綱誠(尾張家3代)・義宜(同家16代)所用	江戸	17	
2	葵紋蒔絵糸巻太刀拵	徳川慶勝(尾張家14代)所用	江戸	19	A
3	葵紋蒔絵糸巻太刀拵	伝徳川宗春(尾張家7代)・松平勝長(同家8代宗勝6男)所用	江戸	18	BC
4	白重藤巻黒塗鞭	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	A
5	重藤黒塗鞭		江戸	17-18	BC
6	上り藤馬標	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	
7	青貝柄槍拵 黒塗銅鍔付鞘付 五本		江戸	18-19	
8	梨子地葵紋蒔絵毛抜形黄金造太刀拵		江戸	17	A
9	葵紋蒔絵細太刀拵	徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)所用	江戸	19	BC
10	蠟色塗刀拵	徳川五郎太(尾張家9代宗睦嫡孫)所用	江戸	18	A
11	蠟色塗脇指拵	徳川五郎太(尾張家9代宗睦嫡孫)所用	江戸	19	A
12	梨子地刀拵	徳川宗春(尾張家7代)所用	江戸	18	BC
13	梨子地脇指拵	徳川宗春(尾張家7代)所用	江戸	18	BC

### 【第1展示室の見どころ — 具足飾り —】

大名の甲冑は、一軍を指揮する大将の威厳を示す着用品である。武家の長としての威厳と品格に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めて、はた目にも美しく見えるように作られた。展示室入口正面の展示ケースは、名古屋城二之丸御殿の御夜居之間で毎年正月十一日に行われた、「具足飾り」の飾り付けに基づいて展示している。「具足飾り」とは甲冑を飾り、その年の武運を祈願する尾張徳川家の年中行事である。甲冑の向かって右手には「馬標」が掲げられている。「馬標」は陣中や戦場において、大将の居所を示すしるしであった。また、甲冑の後ろに掲げられた葵紋付きの大きな旗は「馬標」と同じ役目があり、「纏」と呼ばれている。

## 特集展示「徳川家康」

徳川美術館の収蔵品の骨格となる徳川家康(1542～1616)の遺産(駿府御分物)は、江戸時代を通じて尾張徳川家第一の什宝として大切に守り伝えられた。武具・茶の湯道具・文房具・書籍など、多岐にわたる遺産は戦国武将の中でも群を抜く質・量を誇っている。また、家康が日常的に使用した道具や着用した衣服の他、国宝・重要文化財に指定された名品などが徳川美術館に伝わる。令和5年は、これら家康ゆかりの品を1年を通じて名品コレクション第1展示室にて紹介する。

14	○太刀 無銘 一文字 駿府御分物	池田輝政・徳川家康所持	鎌倉	13	
15	刀 銘 広助 駿府御分物	徳川家康所持	室町	16	
16	脇指 銘 江州高木住貞宗	徳川忠長・徳川義直(尾張家初代)所持	南北朝	14	
17	短刀 無銘 正宗 名物 若江十河正宗 駿府御分物 初代越前康継再刃(大坂焼物)	十河十左衛門・豊臣秀吉・徳川家康所持	鎌倉	14	
18	本阿弥光忠折紙 享保元年申十月三日 (No.14 太刀 無銘 一文字 附属)		江戸	享保元年<1716>	
19	御腰物元帳 六冊の内 巻六 礼六の部		江戸	18-19	
20	和歌短冊「ふしの山」	徳川家康筆	桃山-江戸	16-17	A
21	和歌短冊「もゝちとり」	徳川家康筆	桃山	16-17	B
22	猿猴図	伝徳川家康筆	江戸	17	C
23	獅子唐花彫紫石硯	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)・光友(同家2代) ・水野貞信所用	南宋	13	
24	建安瓦硯 駿府御分物	伝古田織部・徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所用	明	16	
25	古銅雨龍形筆架 御家名物	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所用	元	14	
参考	徳川家康画像(東照大権現像)(複製)	原本 伝狩野探幽筆	昭和	20	